

北総地区

- ・ 佐倉市
- ・ 四街道市
- ・ 印西市
- ・ 白井市
- ・ 栄町
- ・ 小見川町
- ・ 山田町
- ・ 栗源町
- ・ 神崎町
- ・ 多古町
- ・ 銚子市
- ・ 旭市
- ・ 匝瑳市
- ・ 成田市
- ・ 富里市
- ・ 八街市
- ・ 酒々井町
- ・ 印旛村
- ・ 本埜村
- ・ 佐原市
- ・ 東庄町

* 佐原市、山田町、栗源町、小見川町の4市町は、平成18年3月27日に合併し香取市となりましたが、旧市町のまま掲載しました。

北総地区 少年の日・地域のつどい大会

北総地区青少年相談員連絡協議会

北総地区青少年相談員連絡協議会は、印旛部会 7市 2町 2村、香取部会 1市 3町、海匝部会 3市の 18市町村の青少年相談員 1,063人（平成 18年 4月 1日現在）の構成で運営しています。

次代を担う青少年が、団体活動・スポーツを通して健全な身体と精神を養い青少年相互の親睦と友情を深め、自覚と誇りを高めることを目的に、印旛・海匝の両地区において以下のとおりつどい大会が開催されました。

平成 17年度印旛地区つどい大会

- (1) 会場：陸上自衛隊下志津駐屯地
- (2) 開催期日：平成 17年 7月 23・24日 [1泊 2日]
- (3) 参加者数：小学 5・6年生 50人
青少年相談員等 60人
- (4) 内容：キャンプ体験・天体望遠鏡作り、花火大会、天体観察等行なわれました。

平成 17年度海匝地区つどい大会

- (1) 会場：銚子市野球場（野球）・銚子市体育館（ミニバス）
旭市総合体育館（剣道）
- (2) 開催期日：平成 17年 8月 6・7日 [少年野球・ミニバス]
平成 18年 1月 29日 [少年少女剣道大会]
- (3) 参加者数：小学 4～6年生 [野球・ミニバス 250人]
[少年少女剣道大会 160人]
青少年相談員等 80人
- (4) 内容：8月 6・7日・・・少年野球・ミニバス
1月 29日・・・少年少女剣道大会

少年野球・ミニバスは、各 8チームのトーナメントで、また、少年少女剣道大会は、団体戦 32チーム、個人戦男子 6年生の部、5年生の部、男子低学年の部、女子 6年生の部、女子 5年生の部、女子低学年の部が行われました。



(印旛地区キャンプ体験) (海匝地区少年野球・ミニバス)

15 期を振り返って

佐倉市青少年相談員連絡協議会

佐倉市青少年相談員連絡協議会は、8地区83名の相談員が運営・活動し、通年「少年少女球技大会」「綱引き大会」「新春凧あげ大会」を恒例の三大事業として開催しています。

「少年少女球技大会」では、“王様ソフトドッジボール大会”と題し、相手チームが極秘に決めた王様に早く当てた方を勝ちとする、変則的な試合形式を取り入れています。

特有のルール効果のため、チーム人数や年齢差のハンディが少なく、ゲーム展開は波乱万丈です。予選リーグ戦と決勝トーナメント戦を制した上位チームには賞状とメダルが授与されます。

また、大会の休憩時間には、豪華景品が当たるお楽しみ抽選会を開催。試合の合間の交流や和みのひとときになっています。平成18年度の大会では過去最高の40チーム380名の参加があり、大盛況に終わりました。

「綱引き大会」は2月に開催され、小中学生合わせて毎年約400名の参加があり、激戦が繰り広げられます。冬場のひんやりとした体育館の空気は、選手の熱気や応援陣の声援で活気づき躍動していきます。

秋口には“彦一たこづくり講習会”を催す地区も多く、1月の「新春凧あげ大会」に繋いでいます。約250名の参加者が岩名運動公園陸上競技場を悠々とつかい、200個近いさまざまな凧が大空を舞う様子は、まさに新春の風物詩です。小さい子供からご高齢のかたまで、参加者の年齢層は幅広く、自作の凧を持参するリピーターも増えています。「親子で頑張ったで賞」「よく走ったで賞」「枝に引っかかったで賞」など、ユニークな賞を多数用意しています。

年に一度発行される広報紙「青少年相談員トピックス」の配布は、各地区の相談員が担当学区の小中学校へ足を運びます。そして、各事業や地区活動を紹介するとともに、イベントの参加を促し、一層の理解や連携を深めています。

一方で相談員を対象としたものは、家族ぐるみで交流や親睦を深められる機会として、春のバーベキュー交流会があります。

秋には県外研修として、近隣の教育関連施設や内容を見学・体験し、活動のヒントとなるよう役立てています。

何れも地区や活動の情報交換の場であるとともに、相談員のコミュニケーションが広がることで、活動の原動力となっています。

これからも地域の身近な“おじさん”“おばさん”として楽しみながら子供たちに関わり、健全な青少年育成活動を推進していきます。

青少年相談員の活動を振り返って

四街道市青少年相談員連絡協議会

私達、四街道市青少年相談連絡協議会は、現在30名の相談員で活動しております。目的としては、青少年の健全育成を目指して活動に取り組んでおります。私達の相談員活動内容について報告致します。

4月に青少年相談員連絡協議会総会を実施し事業報告・決算報告・新年度予算・事業計画を総会で協議決定します。それにしたがって、年間行事が決まります。活動内容についてですが、7月初旬には、市の行事の青少年健全育成推進大会があり、そこでパレード参加や、パンフレット等の配布をして青少年の健全育成の推進活動を実施しております。

7月下旬には、印旛地区少年の日・地域のつどい大会が四街道市事務局で、陸上自衛隊下志津駐屯地で開催し、天体望遠鏡作り・花火大会・天体観測・広報史料館見学・キャンプ体験・レクリエーション等の行事の実施と指導をしまして、多くの参加の子どもの楽しい笑顔や、作る事の楽しさなどを教える事ができ、相談員及び子ども達も満足のいくつどい大会になり良かったなあと感じております。協力して頂いた。北総地区の青少年相談員・事務局の方に感謝しております。

8月初旬には、少年少女球技大会の後援事業として協力をしました。

8月下旬には、四街道ふるさと祭りでは、場内警備・周辺の警備を実施しました。

10月中旬には、青少年グランドゴルフ大会・福祉バザーを実施しました。

2月初旬には、つなひき大会を実施しました。現在四街道市では、上記の活動をしてはいますが、今後は、少子化に伴い行事の参加者が減少傾向にあるので、魅力のある行事を取り入れると伴に地域の特色をいかした活動をしていきたいと思っております。

第 15 期青少年相談員活動

印西市青少年相談員連絡協議会

印西市青少年相談員連絡協議会の第15期の組織は、前期の小学校区単位の13学区から、中学校区を単位とする6地区として組織改革を行った。地区の中には今までの小学校区活動を中心として行っている地区もあれば、中学校地区1つとなった活動も行われていた。

地区は、印西中学校地区、小林中学校地区、船穂中学校地区、原山中学校地区、木刈中学校地区、西の原中学校地区の6地区で、里山体験、カルタ大会、卓球大会など地区それぞれ思考を凝らして毎年さまざまな事業を展開していた。

連絡協議会全体では、夏休みに実施した「青少年ふれあいキャンプ」での自然体験。これは、15期1年目に市教育委員会が主催で行っていた「ビックチャレンジーズキャンプ」を行わなくなり、2年目の平成17年度に、大谷会長が連絡協議会が主催でキャンプを是非やりたいと復活。教育委員会が主催ではないので、キャンプ用品もすべて相談員たちの車で運ぶなど様々な制約があったが、2年間行ってきた。子ども達の友情と併せて、参加した相談員の絆も深まった。

また、毎年冬に実施している「長縄とび大会」では、数多くの子ども達の数と、練習の成果となる新記録が毎年次々に更新されたことは、本当に驚いた。賞品も「月の土地」を毎年そのチームに渡している。この事業も次期相談員活動で是非引き継いでいただきたいと思う。

第15期の相談員は51名委嘱を受けていたが、事業実施日に仕事で来れなかったりする人もおり、全体の事業では三分の一程度が顔を合わせる結果となった。この3年間の活動で、各地域の横の繋がりが広まり、今後の様々な活動でこの絆が役立つものと考えている。皆さんお疲れ様でした！ また継続する人は頑張ろう!!



相談員活動を通じて

白井市青少年相談員連絡協議会

私たち白井市の相談員は、31名で企画・運営し活動を展開しています。相談員による事業としては、「おも白井デー(ドッチボール大会)」「ウォークラリー大会」「ホワイトスクール(スキー教室)」などがあります。

また、市が主催する事業への参加協力を通じて、青少年の健全育成に積極的に活動しています。

市が主催するスポーツ大会等の事業などでは、運営や審判として参加し、子ども達に関わる機会や時間を多く持つようにしています。中学生との座談会や宿泊を伴うホワイトスクールなどで、子ども達から「こんなお兄さん・お姉さんが身近にいるなんて知らなかった」などと言われると、少しは青少年相談員らしいことをしていると思えます。

15期からの新たな取り組みの1つに、小学生が一定期間家族と離れ、公民館施設に共同で宿泊生活をしながら学校に通う「通学合宿」事業があります。

この事業は、白井市においても都市化の進展や核家族の増加により地域コミュニティの希薄化が進んでいることから、相談員や子どもたちが地域の人たちと関わりながら活動できる事業はないか、ということで取り組むこととしました。

参加募集のチラシ作りやポスターの掲示、また、食材を買うための商店までの付き添い、食事作りの指導、あるいは、登下校時の見守りや、もらい湯の協力など、相談員OBや多くの地域の方々の協力と参加を得て展開しています。



私たち相談員は、こうした事業を通じて、子ども達の遊び相手、相談相手となり、良きお兄さん、良きお姉さんがいつでも近くにいる事をもっと多くの子ども達に伝わるよう活動して行きたいものです。

そして、子ども達が中学生・高校生に成長しても私たち相談員の顔を覚えていてくれて、気軽にあいさつをしてくれるような地

域づくりに貢献できればと思っています。

青少年相談員活動を振り返って

栄町青少年相談員連絡協議会

第15期の青少年相談員活動も残りわずかとなり寂しい気持ちとほっとした気持ちが交錯する時期となりました。振り返れば一瞬の出来事のように感じます。

我々青少年相談員の活動には、主催事業の運営・開催のほか、町事業や町内各団体が行う青少年活動事業等のボランティア補助が主な活動となっており各地区・各地域で相談員が活躍しています。

中でも、主催事業の「オールナイト・ハイク」と各地区の祭事については力を入れている事業です。

「オールナイト・ハイク」については、今年で12回目を迎え相談員の伝統的行事となっており、毎年100人を超える子ども達が参加し完歩している。距離は全長18キロで、1班12人編成の子ども達に相談員が付き添い、皆で協力・助け合い、時には励ましあってゴールを目指していきます。子ども達のパワーは計り知れないものがあり、毎年こちらが支えられているように感じます。また、相談員OBの方々が子ども達を歓迎するため、途中の休憩所でトン汁の配布を行い参加者をもてなしています。

笑いあり！涙あり！の道中で、「一人がみんなのために みんなが一人のために」をモットーに完歩するため必死に歩く子ども達の姿を見ていると、大人に忘れかけている純粋な心が甦るようで、こちら童心に返る思いです。

このように、多くの感動をもたらしてくれる事業の一つである為、今後もメインイベントとして継続させ伝統行事として推進したいものです。

また、他団体との協力・連携事業として「ユニカール大会・たこ作り教室」を同日に開催しています。「ユニカール大会」は、町子ども会育成連絡協議会の主催で、相談員がサブとなり午前中に実施し、午後からは相談員が主催で「たこ作り教室」を行います。

これは少子化が進む中、2つの事業（同時期に行うため）を違う日に実施すると参加する子供を集めるのが大変になってしまい事業が成り立たなくなる可能性があるからです。結果、2団体が同日にそれぞれの事業を行うことで、子供やスタッフの確保が容易になりました。

今期の相談員活動を振り返ると、自主活動や様々な事業での活躍の場が多々あり、相談員の存在が重要であることに気付くこととなりました。これからの社会を支える青少年世代に期待する事が多くあるため、今後の活動も自分達に出来る事を精一杯務めて行きたいと思います。

私達の青少年相談員活動

旧小見川町青少年相談員連絡協議会
(現：香取市青少年相談員連絡協議会小見川支部)

私たち，香取市青少年相談員連絡協議会小見川支部（旧小見川町青少年相談員連絡協議会）は現在50名の青少年相談員で活動しております。合併に伴って名称変更（旧市町 支部）しましたが，しばらくの間は，それぞれの地域で活動していきます。今後，小見川町青少年相談員は香取市青少年相談員連絡協議会小見川支部青少年相談員として，気持ちを新たに，引き続き青少年健全育成に努めていきたいと思ひます。

では平成17年度の小見川町青少相の活動状況について，ご報告させていただきます。

私たちの活動は，4月の定期総会から始まります。総会では，前年度の活動報告及び今年度の事業計画等について話し合いをいたします。

8月の「青少年のつどい小見川大会」開催に際しては，企画，運営会議を重ね，「ヘルスバレーボール」を実施しました。子どもたちも大勢参加し，猛暑の中，勝敗を競い合いました。子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している今，地域の大人と接して学ぶことのできる良い機会だったと思ひます。

10月の「生涯学習フェスティバル」では運営スタッフとして，「スポーツフェスタ」の際はヘルスバレーボールの競技役員として参加しました。

そして3月には，「違法看板撤去作業」を実施し，各地区内においてピンクビラや捨て看板を撤去いたしました。

以上が連絡協議会の主催事業です。この他にも地区ごとに，各種団体との共催事業や，地区のお祭りに参加するなど，地区の各種団体との交流も実施しております。

青少年育成に携わる者として，子どもたちが健康でたくましく，豊かな心をはぐくむ手助けができるように努めていきたいと思ひます。

今後とも，よろしくご支援・ご指導賜りますようお願い申し上げます。



青少年相談員の活動を振り返って

旧山田町青少年相談員連絡協議会
(現：香取市青少年相談員連絡協議会山田支部)

当協議会(旧山田町青少相会)は平成18年3月27日の市町村合併に伴い、香取市青少年相談員連絡協議会山田支部と名称が変更になりました。しかし合併後も当面は、各支部(旧市町)活動を中心に行うことになっています。

それでは、平成17年度の旧山田町青少年相談員連絡協議会事業活動を振り返りまして、ご報告をさせていただきます。

私たちは、まず4月の総会で前年度の決算や事業計画の承認をいただき、活動を開始いたします。

5月には、「子どもつどい大会」を実施いたしました。この大会は、子どもたちが交歓交流し、友情を深め、競技への参加を通してリーダー資質の向上を図ることを目的としています。午前中は各小学校対抗の綱引き大会、午後には個人戦としてレク大会(ユニカール・グラウンドゴルフ等)を行いました。大会当日は子どもたちも大いに張りきり、楽しく過ごすことができましたと思います。

7月には、青少年ソフトボール大会を実施いたしました。この大会もつどい大会同様、子どもたちが交歓交流し、友情を深めることなどを目的としています。そして同じく各小学校対抗で実施いたしました。子どもたちだけでなく、保護者の方々の応援にも熱が入り、炎天下の中、気持ちのいい汗を流せたと思います。

11月には、町青少年相談員視察研修会を実施いたしました。当町では、青少年施設の見学を通し、青少年相談員の資質向上を図り、活動の参考とするため、隔年ごとに視察研修会を行っております。今年度は、栃木県立「とちぎ海浜自然の家」に視察に行きました。

2月には、町民駅伝大会を行い、相談員が運営役員として参加しました。毎年、この駅伝大会と10月の町民体育大会は協賛事業として相談員が運営役員として参加しています。

本年度は、第15期青少年相談員の2年目ということもあり、相談員としての自覚も前年以上にでてきたと思います。事業につきましても、例年以上にスムーズに実行できました。ただ、子どもつどい大会・ソフトボール大会など人数の確保が難しい事業につきましても、今後検討していかなければならないという問題点も残りました。そういった問題点をクリアし、今後も更なる努力が必要になってくると思います。今まで以上に青少年の健全育成に励んでいきたいと思っています。

青少年相談員活動を振り返って

旧栗源町青少年相談員連絡協議会

(現：香取市青少年相談員連絡協議会栗源支部)

第15期青少年相談員は平成16・17年度を栗源町において活動し、残り1年を市町村合併により香取市青少年相談員として活動しております。

私たちは、全18名と他の市町村と比べると少数ではありますが、青少年相談員は防犯指導員も兼務しているため、活動は多岐にわたり、子どもたちや住民とのふれあいを大切にして活動してまいりました。それでは、旧栗源町青少年相談員連絡協議会の活動について報告します。

5月に定期総会を開催し、年間の事業計画と予算を審議します。1年間の事業の始まりでもあり、決意も新たに、気を引き締める時でもあります。

7月には、学校の先生方や警察署の職員、駐在の方にも協力していただき、子どもたちの夏休み中の過ごし方について、懇談会を開催しました。その際、子どもたちを取り巻く環境と現状、問題等を十分に協議し、夏と冬に実施する「地域パトロール」の参考にさせていただきました。

8月上旬には栗源町の小学生を対象に、茨城県白浜少年自然の家で「自然体験学習」を行いました。野外炊飯や班ごとの発表、奉仕活動を通じて、挨拶を励行させ、規律ある行動を遵守させます。初めて会う人とのコミュニケーションも重要な課題で、丸2日間にわたる団体活動では、物怖じせず人と話せるたくましさも養われました。

8月下旬には毎年行われている「栗源の夏祭り」においてスポーツゲームコーナーを担当し、子どもたちの笑い声が祭りに華を添えていました。また、場内パトロールを実施し、子どもたちの事故や非行に注意を呼びかけました。

10月には「栗源町民体育大会」が開催され、競技役員及び保育園児との綱引きの相手も務めました。また11月の「栗源のふるさと祭り」においても運営協力をします。県内外から約3万人が来場する栗源町における一大祭りで、各イベント補助やシャトルバスの運行補助、会場内のパトロール等重要な役割を担い、毎年同様大変忙しく目の回る一日でした。

学校が冬休みに入ると冬季パトロールを行い、1月下旬には中学生を対象に「スキー教室(長野県のスキー場で、2泊3日)」を実施しました。楽しさと同時に、規律ある行動の重要性を学ぶことができます。インフルエンザのシーズンだったので子どもたちの体調に細心の注意を払いました。

年間最後の事業が2月に開催した「小学生スポーツ大会」です。学校対抗のドッジボール大会で、このときばかりはケガに気をつけてもらいながら、思いっきり体を動かすことを教えました。

現代は都市・地方にかかわらず凶悪犯罪が起こっている時代です。子供達を加害者にも被害者にもさせないためには、我々が、事件を身近な問題と捉え、子どもたちに、社会の中における自分の存在の重要性を認識させなければなりません。その成果は一朝一夕に成るものではなく、目に見えるものでもありませんが、私たちの活動が子どもたちの健全な成長の助けになっていることを祈りつつ、今後も地道に活動していきたいと思えます。

我が町の青少年相談員活動

神崎町青少年相談員連絡協議会

神崎町は、千葉県の北端中央部に位置し、東は香取市、西は成田市に接するとともに、北は利根川を望む自然と緑が豊かなまちで、神崎の大楠である通称「なんじゃもんじゃの木」は国指定天然記念物とされ、町のシンボルとして親しまれているところです。

本町の協議会は、小学校2校、中学校1校の学区から選出された15名の青少年相談員で構成されており、小さい町ではありますが、子どもたちにとって身近で親しまれるおにいさん(?)を目指して活動しています。

さて、主な事業を紹介させていただきますが、

第一に「夜間パトロール」の実施です。犯罪のない明るい社会で生活することは、だれもが望んでいますが、地域住民の一人ひとりが力を合わせて地域安全活動に協力していかなければ警察の力だけでは十分な成果はあがりません。本町の青少年相談員15名全員が「防犯指導員」の委嘱を受け、地元警察の協力も得ながら夏季及び春季の年2回「夜間パトロール」を実施しています。特に、夏季については、PTA及び教職員との合同で実施しています。

第二に「神崎ヤングフェスティバル」の開催です。町内外の青少年を対象に自己表現の場を提供し、自己研鑽を促し、交流・親睦を深めることにより、青少年の健全育成に寄与することを目的として平成14年から毎年行われている事業であり、ピアノ演奏や中高生によるダンスを中心にコントや歌の発表もあるなど、子どもたちのパワーには圧倒されます。是非機会がありましたら、観覧にいらしてはいかがでしょうか。

第三に「通学合宿」の実施です。平成18年度の新規事業で、家族と離れて、異学年の人と生活をともにし、生活体験や社会体験をつむ事によって、協調性や社会性を養うとともに、自立心を高め、自分や自分の家族を見直す機会とする。また、地域での人のつながりを深めるとともに、地域社会の教育力の向上と地域社会での子育てを支えていこうとする気運を高めることを目的として行った事業で、青少年相談員は、生活支援として参加しましたが、子どもたちにとって、新たな友達ができたり、もらい湯などを通じて地域の人たちと交流が深まるなど、とても良い経験だったと思います。

また、他にも、養護学校もちつき大会の開催なども行っております。

今後も、こうした活動を通じて子どもたちとコミュニケーションを図りながら、明るく楽しい町づくりの手助けとなるような活動をしていきたいと思っております。

青少年相談員活動を振り返って

多古町青少年相談員連絡協議会

多古町青少年相談員連絡協議会では、15期（平成16年度）になってから「多古町ドッジボール大会」を開催しています。

最初の年は、年1回夏のみの開催でしたが、昨年からは年2回、夏と冬に開催しています。

毎回15チーム程度の参加があり、参加者も約250名。青少年相談員連絡協議会で実施する事業でも、子ども会と共催している「ウォークラリー大会」と並ぶ評判の事業です。

15期の委嘱の後、まだ相談員同士が相談員としての仕事や活動が分からない中、何度となく集まり企画を考え実践した事業で、とても思い入れのある事業です。

町の大会は日本ドッジボール協会のルールに準じていますが、コート大きさやプレイヤーの人数などは若干違います。

最初の大会を開催する前は、ドッジボールに詳しい小学校の先生を招き、みんなでドッジボールのルール学習をし、また週に何度も集まって夜の体育館で審判の練習をしていました。そんな、活動の中から15期委嘱された当初から、相談員同士の連帯感が深まったような気がします。

この大会も昨年度から、審判員や運営する役員のほかに、子ども会のリーダー的な6年生に試合会場のアナウンスや、選手のゼッケン・サポーター配りなどをお願いして、青少年相談員だけでなく、子どもたちと一緒に運営する事業にと変えてみました。

選手も楽しめ、その子どもたちを子どもたちが世話をする異年齢間のふれあいの機会ともなっています。

定期的に行っている、下校時の学校安全・健全育成パトロールなどと違い、「ドッジボール大会」では、子どもたちと一緒に楽しめ笑顔を見ることが出来る大変良い機会です。そんな笑顔を見てみると、青少年相談員をしていて良かったと私自身も実感できる良い機会でもあります。



青少年相談員活動を振り返って

銚子市青少年相談員連絡協議会

私が青少年相談員の委嘱を受けてから、今年で6年目を迎えます。初めの3年間(14期)は、様々な行事や活動に参加しましたが、手伝い程度といった感じでした。しかしながら、一昨年(15期)からは支部長となり、ある程度責任のある立場として、活動計画や運営の一端を担うようになり、青少年相談員の活動というものが理解できてきたところです。

まず、銚子市青少年相談員連絡協議会の構成について簡単に説明しますと、小学校区ごとに支部を設け、14支部、96名の相談員がいます。そして、会長1名、副会長3名、支部長14名により月1回程度の役員会を開き、行事の計画や運営に当たっています。青少年相談員の事業としては、夏に行う少年野球大会・少女ミニバスケットボール大会、秋に行う市民ウォークラリー大会があります。少年野球大会は、今年で37回目となりました。私も30数年前に選手として参加したこともある歴史ある大会で、「野球の銚子」の一端を支えているんだなと感動したものです。女子ミニバスケットボール大会も27回を数え、こちらも野球と同様、父兄、地域を巻き込み年々盛り上がってきています。ただ残念なことに、野球・バスケット共に海匠大会がなくなり、「銚子市代表」という一つの名誉が消えてしまいました。私達銚子市青少年相談員でも、海匠大会が無くなったことを期に銚子市の大会も見直そうという意見も出しましたが、今年は今までの歴史と伝統を重んじ、また、子ども達の楽しみを残そうという意見で一致し、例年どおり開催することとなりました。今後もずっと続いていくことを期待しています。

秋に行っている市民ウォークラリー大会は、今年で11回目となります。市内の一つの小学校とその周辺地域を会場として行い、子ども達が地図を片手に各チェックポイントを廻り、設定タイムに近づけてゴールするというものです。チェックポイントでは、その地域に関係した問題を出したり、地域の名所をコースに組み込んだりして、自分達の住む地域の再発見をしてもらおうとの思いもあります。この他にも、環境美化推進事業として各小学校へ清掃用具の配布をしたり、各種団体と協力して夏・冬休みや祭りのパトロールを行ったり、銚子マリーナトライアスロン大会、中学校対抗銚子半島一周駅伝大会等に協力するなど地域や行政との連携を密にした活動を行っています。

しかし、近年、特に15期においては、環境の変化が著しく対応に苦慮しました。市町村の合併、学校の統合・地区の再編など私達の活動に多大な影響を及ぼしています。環境の変化に合わせ、私達の活動も変化せざるを得ないのですが、私達青少年相談員の基本である「子ども達の為に」という気持ちだけは忘れてはなりません。また、この5年余り青少年相談員として活動して思ったことは、自分達も楽しめる行事にしていくべきだということです。これからは、より一層各地区、関係団体との関係を密にし、自分達も楽しめる、やりがいのある活動にしていきたいものです。

私達の青少年相談員活動

旭市青少年相談員連絡協議会

平成17年7月1日、旭市・海上町・飯岡町・干潟町が合併して誕生した本市は、人口7万1千人の東総地域の中核都市として、今後の発展が期待されています。

私達青少年相談員も、市町村合併に伴い市長から再委嘱を受け、同年9月に「旭市青少年相談員連絡協議会」として設立いたしました。これからも青少年健全育成を目的として、次の主な活動を実施していきます。

1. 活動内容

(1) 軽スポーツ大会

市内の小学生高学年を対象とした「ティーボール交流大会(6月)」と「ドッジボール大会(11月)」を開催します。ティーボールは、合併以前から旧旭市の事業として浸透していますが、合併後、新市事業となった為、体育指導委員の協力を得て、旧三町の小学校を巡回し競技の周知とともに、大会に参加できるように「ティーボール教室」を開催いたしました。

また、ドッジボールについては、今年度からの新規事業で地区・学区毎にチーム編成し、私達相談員が中心となり児童への指導を行う予定です。

「いつでも・どこでも・だれでも」参加できる軽スポーツを開催することにより、児童の体力向上とコミュニケーションづくりを図ります。

(2) 防犯パトロール

各支部活動として、夏季及び冬季休業中に「夜間パトロール」を実施し、青少年を非行や犯罪・不審者から守ることを目的としています。

(3) ボランティア活動

干潟支部の活動で、毎月第1日曜日を「社会奉仕の日」とし、児童のボランティア精神と美化意識の育成の為、神社や公共施設を清掃しています。

2. 今後の課題

本市の青少年相談員は、118名委嘱されていますが、児童・生徒と接する機会が少なく、お互いを知らない相談員もいると聞いています。

「地域で青少年を育てる」ためにも、私達相談員が子ども育成会等の関係団体と連携を取り、「一人でも多くの児童・生徒とふれあうこと」が必要であると思われま



H18.6.4 旭市スポーツの森公園野球場
市民スポーツのつどいティーボール交流大会

私たちの青少年相談員活動

匝瑳市青少年相談員連絡協議会

平成18年1月23日に旧八日市場市と旧野栄町が合併し、匝瑳市として誕生して7ヶ月ほど経過しました。当相談員連絡協議会も「八日市場支部」と「野栄支部」の支部制を設け、積極的に活動しております。

まずは、八日市場支部よりご紹介します。「八日市場」という地名は、毎月8日と12日に「市」が開かれたことに由来し、古くから東総地域の商取引の中心地、交通の要衝として栄えてきました。また全国屈指の「植木のまち」としても知られています。

八日市場として市制を施行されたのが昭和29年7月1日、1町9村(10地区)が合併して誕生しました。青少年相談員の活動は、この10地区の小学校を基軸に選出された総勢57名で、スポーツ活動を中心に運営・実施しております。これら活動の内、「八日市場市少年の日地域のつどい大会」(年1回)は、少年野球大会を36回、少女ミニバスケットボール大会を26回開催し、地域に密着したスポーツ大会となっています。(添付写真参照)

その他オリエンテーリングや宿泊体験の活動もしておりますが、10地区それぞれ独自に、より地域特性を活かした活動を立案実施しています。月1回の休日を利用したニュースポーツ教室や野外活動(キャンプ等)、稲作体験(田植えから餅つきまで)、スケート教室、昔遊び教室、民芸大会など地区毎に企画され、地域住民と一体となり健全な青少年育成活動へと繋げています。

市町村合併して「匝瑳市」となった今年も、前述の少年の日地域つどい大会(第1回匝瑳市大会として)を引き続き開催して、2地区を加えた合計12地区で盛大に執り行いました。

第15期としての活動も残すところ僅かとなりましたが、今後スポーツ活動を通じて、少年少女の健全な身体と精神を養うと共に、青少年相互の友情を深める事を目的に、充実した活動を実施して行きたいと思っております。

野栄支部は旧野栄町が昭和38年に相談員連絡協議会が設立されて以来、積極的に活動を続けております。学校単位で実施する小学生高学年を対象とし、自分で身の回りの世話をしながら、友達との交流を深める目的の宿泊研修「フロンティア学寮」では、創作活動や福祉活動を内容に盛り込んで、参加する子どもたちに大変な反響を呼んでおります。毎年、参加人数が多数のため、抽選で決定しているため中には悔しがる子どもたちもおります。

本年度は、記念すべき第1回目の匝瑳市少年野球大会並びに少女ミニバスケットボール大会を開催し、市内の少年野球チームと、少

女ミニバスケットボールチームが2日間にわたり熱戦を繰り広げました。少年野球の優勝チームは栄地区の「栄小学校」が、見事優勝いたしました。

冬には異学年との交流を目的とした「小中学生のつどい大会」事業を、中学生、小学生を混ぜた班編成で、その場所の歴史・文化に触れながらのウォークラリーなどを実施しております。

各種事業だけではなく、青少年非行防止のため、夏休み、冬休み、春休み期間中のパトロールも行ないながら、他にも共催事業や後援事業も多数あり、会議の中で昨年度の内容を反省課題とし、なお一層の事業内容にするため長時間にわたり協議し、主催事業だけで年間十回以上、その他、共催・後援事業が多数と、精力的に活動しております。

今後とも、より多くの子どもたちが積極的に参加できるよう、また、参加しやすく、魅力のある事業を匝瑳市独特の青少年健全育成事業として、全力で取り組んでいく所存でありますので、よろしくお願いいたします。

